

川崎市におけるネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883 の記録

三田村瞬*・三田村秋**

Records of *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883 in Kawasaki City

Shun Mitamura*, Shuu Mitamura**

はじめに

ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883 は、茨城、千葉、埼玉、新潟の各県より西の本州と四国、九州に分布する(石田ほか, 2004)。石田ら(2004)によると、おもに平地や丘陵地のヨシ *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud. やガマ *Typha latifolia* L. が繁茂した沼地に生息するが、概して近くに森林がある丘陵地の沼を好む性質が強く、成虫は6月中旬から出現して8月末ごろまで見られ、成熟個体は黄昏活動性が強く、真夏の晴天日には夕方、辺りが真っ暗になるくらいまで摂食飛翔を続ける。また、1年1世代型の発生で、亜終齢またはそれより2~3 齢若いステージの幼虫で冬を越し、翌春の3月下旬ないし4月上旬頃、終齢になって初夏に羽化すると記されている(石田ほか, 2004)。

神奈川昆虫誌(荻部ほか, 2004)によると神奈川県内では横浜、三浦半島、湘南、県央西部、津久井でわずかに記録があり、川崎市では麻生区黒川(荻部ほか, 2000)で古い記録が記載されているが最近の記録は見当たらない。

採集記録

トンボ目 Order Odonata

ヤンマ科 Famiry Aeshnidae

ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

[宮前区]1♀, (成虫), 宮前区南平台, 22-VII-2022, 三田村秋, KMM-IN-03001328.

著者らは、2022年7月22日15時頃、宮前区南平台周辺(図1)において飛翔するヤンマを確認した。見慣れないトンボであった為、採集し、観察のため2日間飼育ケースにて飼育した。飼育下では、産卵行動が見てとられた。また、採集時は完全であった各翅は、飼育中に先端が破損した(図2)。

筆者らはネアカヨシヤンマではないかと考え、SNS(Twitter)に投稿した所、「日本の



図1. ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883 が採集された川崎市宮前区南平台周辺の様子



図2. 川崎市産ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883 成虫♀

トンボ」の著者である川島逸郎氏の目に留まり、本種の♀であると同定して頂いた。

おわりに

本種については、川崎市内では麻生区黒川(荻部ほか, 2000)を最後に記録が無いため、川崎市宮前区の市営団地内において採集されたことは、貴重な記録である。本種の生息地である湿地環境は採集地近くでは見られず、他地域からの分散・迷入個体と見るのが最も自然であると考えられるが、採集地から2kmほどの距離に、ヨシやガマが生息する生田緑地があるほか、立ち入り禁止区域である川崎国際生田緑地ゴルフ場内や

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

**神奈川県川崎市宮前区南平台 Nanpeidai, Miyamae Ward, Kawasaki City, Kanagawa Prefecture

旧向ヶ丘遊園敷地内にも大きな池が存在するため、今後も注視していきたい。

謝辞

本稿作成に当たってご助言頂いた、川崎市青少年科学館の高中健一郎氏に感謝を申し上げます。

引用文献

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊,

2004. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説 第7刷. pp.78, 東海大学出版会, 秦野.

荻部治紀・岩田芳美・高橋小百合・昆虫班 (トンボグループ), 2000. 川崎市内のトンボ類 ―おもに 1999 年の調査から―. 川崎市青少年科学館紀要, (11): 24-28.

荻部治紀・川島逸郎・岸 一弘・石川 一, 2004. トンボ目. 神奈川昆虫談話会 (編), 神奈川県昆虫誌 I. pp.83. 神奈川昆虫談話会, 小田原.